

## 報道ピックアップ etc

毎日新聞 2019年11月13日 東京朝刊

### ともに・2020バリアーゼロ社会へ 乗降補助タクシー、3割が乗車できず 障害者団体が実態調査

車いすのまま乗車できるタクシー「UD（ユニバーサルデザイン）タクシー」について、障害者団体「DPI日本会議」（東京）が今年10月に車いす利用者延べ120人の乗車調査をしたところ、27%にあたる32人が乗車拒否などで乗車できなかった。同会議が12日に発表した。運転手がスロープの設置方法を知らないケースもあった。同会議は国土交通省に改善を求める。



電動車いすでUDタクシーに乗り込む土屋さん＝東京都江戸川区で2019年10月

UDタクシーは車両後部にス

ロープをつなげ、車いすのまま乗れる。東京五輪・パラリンピックを機に車いす利用者が増えることが予想されるため導入を進めている。運転手がスロープ設置や車いすの固定などを行う。

調査は東京パラリンピック300日前の10月30日に、21都道府県で乗車の可否や乗るのにかかった時間などを調べた。乗車できなかった理由は「スロープを積んでいないと言われた」「明らかに目をそらしスルーされた」など。乗車できなかったケースは東京都が21%に対し、都外では29%と地域差があった。乗車にかかった時間は平均11・2分だった。

電動車いすを利用する東京都江戸川区の土屋峰和さん（51）は調査で3台に乗車した。どの運転手も調査に備え、事前に乗せ方を練習していたが、ある50代の男性運転手は「時間がかかるので雨の日は勘弁してほしい」と本音を漏らした。

昨年6～9月の前回調査では延べ44人中11人（25%）が乗車できず、今回は改善はみられなかった。全国ハイヤー・タクシー連合会によると、UDタクシーは今年3月末時点で1万1872台で昨年同時期より7100台増えた。土屋さんは「会社側は、実際的な研修を継続してほしい」と訴えている。

【斎藤文太郎】

読売新聞 2019/09/26 19:36

### 車いす「操作わからない」と乗車拒否…バス会社を行政処分

路線バスに乗ろうとした車いすの男性の乗車を拒否したとして、国土交通省近畿運輸局は26日、帝産湖南交通（本社・滋賀県草津市）に対し、バス2台の使用をそれぞれ15日間停止する行政処分を行った。

運輸局の発表によると、男性は7月3日正午頃、大津市の「瀬田駅」バス停からバスに乗車しようとしたところ、運転手から「(車いすの乗降用の)スロープの操作がわからない」と断られ、45分後の次の便に乗車するよう促された。

バスはワンステップの低床型で、運転手がスロープを設置すれば車いすで乗降できる。帝産湖南交通によると、運転手は「発車時刻を過ぎていた」などと釈明しているという。同社は「不適切であり、男性に謝罪した。処分を重く受け止め、乗務員への指導を徹底する」としている。

2016年施行の障害者差別解消法は、障害を理由にした乗車拒否や入店拒否などを禁じている。

---

**時事ドットコムニュース 2019年10月15日 15時16分**

### **重度障害者、就労中も支援へ＝通勤、職場での時間対象一厚労省**

厚生労働省は、日常生活で常時介護が必要な重度障害者への支援拡充の検討を進めている。職場で過ごす時間や通勤時の介護も公的支援の対象とする制度改正を行い、障害者の就労機会の拡大を目指す。当初、来夏までに具体策を取りまとめる予定だったが、制度改正を求める声が国会で広がっていることを踏まえ、同省は前倒しも含め対応を急ぐ方針だ。

重度障害者は、食事や排せつ、移動といった普段の生活のための「重度訪問介護サービス」を、月額の自己負担3万7200円を上限に受けることができる。しかし通勤時や職場での支援は「経済活動」とされ、対象外だ。

6月に成立した改正障害者雇用促進法の審議では、衆参両院の厚生労働委員会が、通勤に関する障害者への支援などを求める付帯決議をそれぞれ採択した。

また先の参院選では、れいわ新選組から重度障害のある船後靖彦、木村英子両氏が初当選したが、国会活動は歳費を受け取る経済活動と見なされたためサービスの対象とはならず、当面は参院の予算で対応することになった。

厚労省による支援策の検討では、高収入の重度障害者にどの程度自己負担を求めるかが焦点となっている。また、事業主が支払う保険料などを繰り入れている労働保険特別会計から費用を出す場合、雇用主のいないフリーランスに同じ支援ができるのかという論点もある。

財源を公費に求める場合は、大企業も含めた個別企業の経済活動への支援に税金を使うことへの理解をどう得るかなど、整理すべき課題は多い。

一方で、船後氏らの常時介護費用の負担を決めた参院議院運営委員会理事会が、一般の重度障害者への対応も急ぐよう政府に強く求めているほか、船後氏らが10日開いた院内集会以外に与党議員も出席するなど、制度改正を求める声は国会内で大きくなっている。

---

**NHK NEWS WEB 2019年11月7日 19時25分**

### **難病患者 れいわ船後氏初質問 音声変換と文字を瞳で示す**

難病のALS＝筋萎縮性側索硬化症患者のれいわ新選組の船後靖彦参議院議員が、7日、参議院文教科学委員会で初めての質問を行いました。

### 装置かんで PC 操作 障害者の教育環境整備を求める

大型の車いすを使う船後氏は、冒頭、チューブ状の装置をかんでパソコンを動かし、あらかじめ入力した文章を音声に変換しました。船後氏は「質問方法などに配慮をいただきありがとうございます。新人議員で未熟ではありますが精いっぱい取り組む所存です」と述べました。質問は秘書が代読して行われ、障害のあるなしに関わらず、子どもたちがともに学べる教育環境を整えるよう求めました。

### 再質問 文字盤の文字を瞳で示し秘書が読み上げ

また質問し直す際には、文字盤の文字を一つずつ、船後氏が瞳で示し、それを秘書が読み上げていました。このあと船後氏は、介助者を通じて「質問時間が超過して、迷惑をかけたので改善したい」と述べました。また質問を終えた心境を問われ、「ゆく川の流を変えて新しき海へと向かう友らとともに」という句を介助者が代読しました。

### 質問のたびに議事進行止める

参議院文教科学委員会では、船後議員が円滑に質問できるよう、対応を検討してきました。

これまでに、委員会室に介助者などが入ることや、パソコンなどの持ち込みが認められたほか、法案の賛否を船後氏の代わりに介助者が表明することや質問を秘書などが代読することも決まっています。

また、質問をし直す場合には、船後氏と秘書などが調整する時間を確保するため、委員長の判断で議事の進行を止めることも申し合わせています。

7日の委員会では、改めて質問する際に船後氏が瞳で示した文字盤の文字を秘書が読み上げて答弁を求めました。委員長も船後氏に割り当てられた時間が減らないよう質問のたびに、議事進行を止めていました。

このため船後氏の質問の持ち時間は 25 分でしたが、実際はおよそ 45 分になりました。

### 参議院 バリアフリー化を進める

参議院では、れいわ新選組の議員 2 人が円滑に活動できるよう、バリアフリー化が進められています。

8月1日の初登院の際には、国会議事堂の中央玄関に、登院したことを示すボードまで車いすで行けるよう、スロープが設置されました。本会議場では、大型の車いすに乗ったまま出席できるよう、出入り口近くの席が改修されました。いすが取り外され、足元の段差をなくし、医療機器などを使う際のコンセントも取り付けられました。2人が所属する特別委員会の部屋にも、車いすで出席できるスペースが設けられました。

2人を介助する人は本会議場や委員会室に入れることになり、採決では、代わりに手を挙げたり、ボタンを押したりすることになります。

一方、議員活動中も2人が公費による介護サービスを受けられるよう、当面費用は参議院が負担することになりました。

参議院は、移動手段として、車いすのまま乗り降りできる福祉車両の導入も決めていて、年明け以降に運用が始まる見通しです。今年度中には、2人の控え室がある参議院本館の3階に、多目的トイレも設けられます。

難病のALS患者の船後靖彦議員は、将来的には、本人に代わって意思表示できる「分身ロボット」の導入も希望していて、今後、与野党間で協議が行われる見通しです。

### 自民 赤池氏「船後氏の要望も聞きながら協議した」

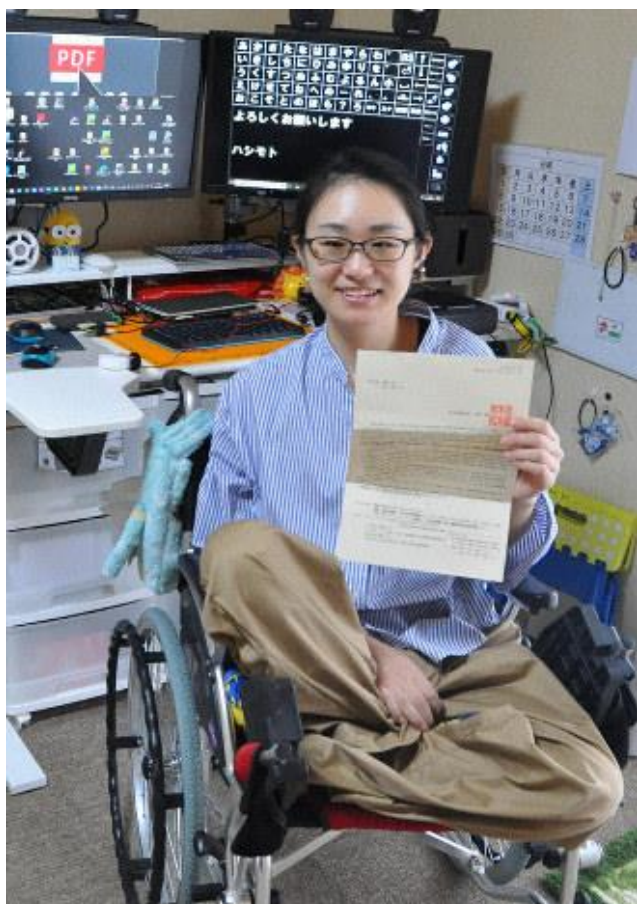
参議院文教科学委員会の与党側の筆頭理事を務める自民党の赤池誠章氏は「憲政史上初めてのことで、船後議員は十分事前の準備をして質問していたので、まずはよかった。今回は速記を止めたが、諸外国の事例を見ると、質問時間の1点何倍という時間の中で、すべての質疑をしてもらう方式もあるので、船後議員の要望も聞きながら、与野党で協議していきたい」と述べました。

## 菅官房長官「後押ししていきたい」

菅官房長官は7日午後の記者会見で「障害や難病のある方々が、仕事でも地域でもその個性を発揮して、生き生きと活躍できる令和の時代を作り上げるため、国政の場でともに力を合わせていきたい」と述べました。そのうえで「バリアフリー法に基づく建物のバリアフリー化や、障害者雇用促進法に基づく障害者雇用の推進の取り組みをしっかりと後押ししていきたい」と述べました。

毎日新聞 2019年11月6日 東京朝刊

### 橋本紗貴さん＝盲ろう、四肢障害で教員採用試験に合格



盲ろう、四肢障害で教員採用試験に合格した橋本紗貴さん＝成田有佳撮影

#### 橋本紗貴（はしもと・さき）さん（23）

右目は見えず、左目は弱視と視野狭さく。難聴。手足に障害がある。いくつもの障害を抱えながら、熊本県教育委員会の今年の教員採用試験で特別支援学校（学級）の校種に合格し、来年度から教壇に立つ。

突然、病に襲われたのは中学2年の5月。体育大会で倒れ、神経系の難病、ギランバレー症候群と診断された。治療薬にアレルギー反応を起こし、視覚、聴覚、四肢に障害が残った。教員を志す原動力は障害者への無理解だ。高校受験の時、何校にも断られた。入学した高校では、文字を拡大できるタブレットを持ち込みたいと相談したら教員から「特別扱いはしない」と心ない言葉を受けた。「生徒に公平に接する先生になる」と誓った。

教員採用試験では、試験の問題文は見えやすい字体に変更し、解答はパソコンを使うなど配慮を受けた。面接では子どもとの接し方や教員同士の連携など障害と関係のない質問をしてくれたことに「一人

の受験生として見られている」と手応えを感じた。

授業をする時は、点字、触手話（しょくしゅわ）のほか、パソコン、タブレット、補聴器など「私の生き

る力」と語る支援機器を使いこなすつもりだ。支援や配慮で障害のある子どものできることは広がるはず。自身の経験からそう信じている。「何もできないのではなく、どうしたらできるようになるのかを一緒に考え、子どもの『できる』を引き出したい」＜文と写真・成田有佳＞

#### ■人物略歴

橋本紗貴（はしもと・さき）さん

大分県生まれ。九州ルーテル学院大卒。卒業旅行は同級生と東京ディズニーランドへ初めて行った。